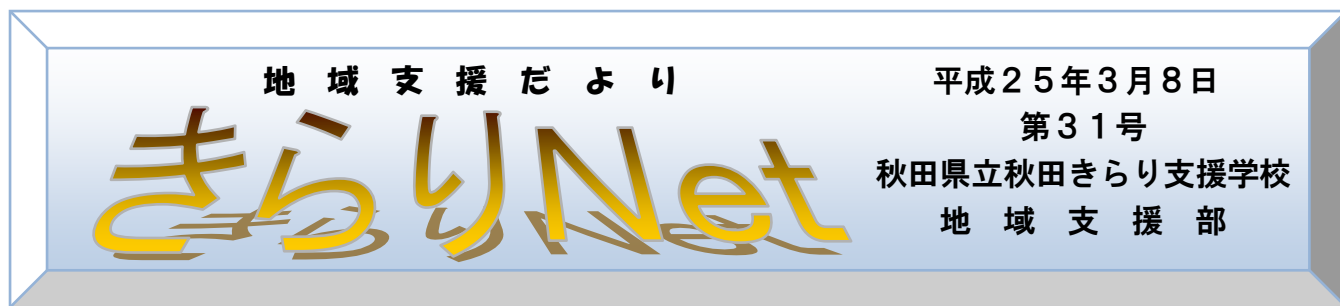


秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。



発達障害特性のある児童生徒の支援について

秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田には、特別支援学校から5名の教員が「教育支援員」として派遣（主担当曜日ごとの配置）されています。

ここでは、その教育支援員としての立場から、移行期における「つなぐ支援」のポイントを紹介します。

幼稚園・保育所 [4～6歳]

入学

小学校 [7～12歳]

卒業

- [在籍期] ・支援の実践・評価の積み重ねから「成功体験の蓄積」を… →以降の学校生活でも同様に…
・6年間ある小学校では「年度切り替え時」での、校内関係者での引継ぎ、情報共有を確実に…
- [移行期] ・入学・進学期の「支援会議(幼保・小、小・中連絡会)」設定等による情報共有を…

入学 中学校 [13～15歳]

卒業

入学 高校 [16～18歳]

卒業

- [在籍期] ・教科担任制や部活等、本人が認められる機会、関わり手の広がりを生かした「チーム支援」を…
・高校では、在学中の就労体験メニューの開発と工夫を…
- [移行期] ・入学・進学期の「支援会議(小・中、中・高連絡会)」設定等による情報共有を…
・中学校では、進学先選択等に向けた早期からの計画的・継続的な進路指導を…
・高校では、ノウハウの蓄積が少ない障害者雇用・福祉的就労面での機関連携を…

学校教育期 [小・中・高]

高校卒業後 [19歳～]…

- 幼少期からの「成功体験」「自己肯定感」の積み重ねを十分に、青年期、成人期への移行へ…
- 個々の就労や社会自立のプロセスに応じた、「オーダーメイドの支援機関チームの編成と役割分担」を…

つなぐ視点から考える「学校教育期に必要な支援」 …就学前 小学校 中学校 高校 高校卒業後…

- 「自己肯定感」の育成につながる「成功体験」の積み重ね
 - 「安心できる居場所」や「好きな世界」の発掘と確保
 - 本人の最大の理解者・身近な支援者である「保護者との協同した取組」

支援を必要とする本人、そして、その家族を支える機能を高めていくためには、ライフステージによって途切れない、支援体制の構築が重要な鍵になる、と考えます。

そこで必要とされるのは、学校時代における「指導と支援の継続性・連続性」です。学校間で大切な情報が引き継がれ、校種間の学校風土を踏まえつつも「関わりの手立て」や、「学校としての方針」が関係者で共有され、本人に還元されていたか — その意識と取組の醸成が求められていると感じています。

本校教育専門監／秋田県発達障害者支援センター教育支援員 館山 峰夫

きらり Net は本校ホームページにも掲載しています。御覧ください。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

『平成24年度「きらり」を振り返って』

雪が多く大変な冬でしたが、その分春の訪れがいつも以上に待ち遠しく、太陽の日差しや春の花の香りがとても嬉しく感じられる今日この頃です。

今年、本校は児童生徒・職員ともに「きらり☆スマイル」を合い言葉にさまざまなことに挑戦してきました。「きらりNet」でも、皆様のニーズを把握し、必要とされる情報をお伝えできるよう努めてまいりました。

ここでは、その枠の中ではお伝えしきれなかった「第10回秋田県特別支援学校文化祭スマイル・ステージ2012」の様子を御紹介したいと思います。

「キラキラ輝け ハッピースマイル」をキャッチフレーズに、平成24年10月25日（木）に秋田市文化会館大ホールで開催されました。

今年の発表校は「かがやきの丘エリアにある盲学校・聾学校・秋田きらり支援学校」。この3校が障害種の垣根を越えて、合同で発表することになりました。障害に違いのある児童生徒達が一緒にできることを見つけ演奏をするのです。これは初の試みです。「本当にできるのかな？」職員はドキドキ。ところが出演する児童生徒達は他校の人達との練習や演奏を楽しんでいる様子。視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の児童生徒が練習を通して、自然にとっても仲良くなり、思いやり、いたわりあって「いい演奏」にしている姿勢が見ている方にも強く伝わってくるのです。盲学校と聾学校の子が話をしたり、聾学校の子が車椅子を押してあげたり、誰かの冗談にみんなで大きな声で笑ったり。時には思うようにできず悔し泣きをしたりしながらも練習を重ね、夏休み前の「かがやきの丘祭り」でも会場から大きな大きな拍手をもらうことができました。とても達成感のある表情が印象的でした。

「スマイル・ステージ2012」本番では、観客も参加出来る雰囲気作りや聾学校の生徒にも分かりやすい目に見える演出なども功を奏し、ステージは大成功！！出演者・参加者ともに大いに盛り上がりました。受付も自分たちで立派にできました。

新屋高校のみなさんの吹奏楽・高文連のみなさんの応援、上北手小のみなさんからきらり児童への応援メッセージなど、関係諸団体や地域の方々からもたくさんの温かい応援をいただき成功に導くことができました。本当にありがとうございました。

「できないからやらない」のではなく、「できることからやっていくこと」の大切さを子どもたちが教えてくれました。これからもこのスタンスで地域支援情報を発信していきます。

「きらり☆スマイル」でチャレンジ。今後も応援よろしく願いいたします。

副校長 靱山節子



障害別支援ガイドの紹介



本県で作成し、Web上で情報提供されている「障害別支援ガイド」。支援の参考にさせていただくことを目的に、各特別支援学校の協力で作成されています。本校では「**肢体不自由支援ガイド**」を作成しています。10月に更新し、3月中旬にも更新予定です。

支援のポイントやおすすめの**教材・教具**等について紹介しています。肢体不自由児の教育を進めるにあたり、役立つ情報があると思います。興味のある方はぜひ御覧ください。



本校ホームページ から閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575